

DATA

名称 日証館
所在地 東京都中央区日本橋兜町1-10
完成 昭和3年
設計者 横河工務所
(現・横河建築設計事務所)



東京証券取引所の北側、日本橋川沿いに建つ日証館。この場所には、元々渋沢栄一翁の邸宅があり、事務所としても使用されていた。

しかし大正12年（1923年）、関東大震災に罹災し邸宅は失われた。その跡地に、昭和3年（1928年）、当時の東京株式取引所によって、震災により事務所・店舗を失った証券会社等のためにこの建物が建設された。

当初は「東株ビルディング」と呼ばれていたが、昭和18年に日本証券取引所が設立された後に「日証館」と呼称されるようになったという。以後、日証館は多くの証券会社が入居する事務所ビルとして、いまに至るまで使用されている。

この建物を設計したのは、横河工務所（現・横河建築設計事務所）。古典様式（古代ギリシャやローマの様式を理想として取り入れた建築様式）風の三層（低層部、中層部、屋階部）構造や、入口と上階の窓にアーチが並ぶ特徴的な外観の意匠が目を引く。

普段は内部非公開だが、令和6年（2024年）5月に開催された「東京建築祭」の折に、エントランスホールと階段部分が公開された。

エントランスホールには大理石の柱が立ち、床には同じく大理石の床石で幾何学模様が描かれている。

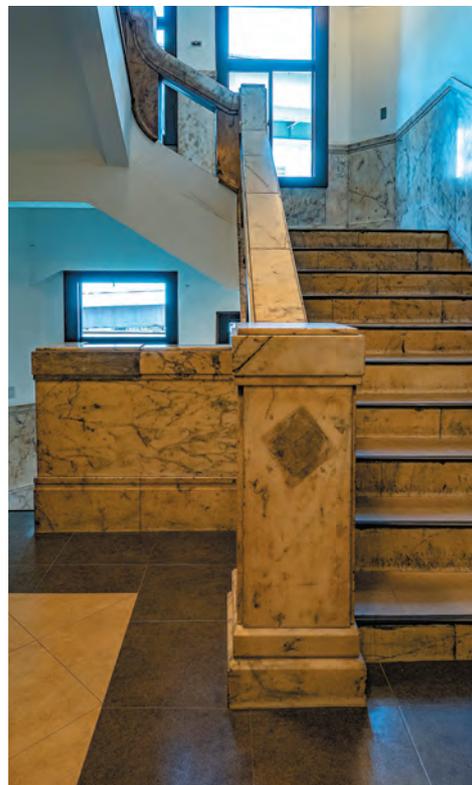
柱と梁の間には、漆喰で装飾された持



漆喰飾りが特徴的な持送りと折上げ天井



模様入りのガラスが美しい
ペンダントライト



日本橋川を望む石造りの階段

大理石の柱と床の幾何学模様

送り（壁や柱から突き出して、棚や梁などを支える部材）が、同様に漆喰飾りで彩られた折上げ天井を支えている。
そこから下がる模様ガラスのペンダントライトが、さらに格調高い雰囲気醸

し出している。
階段は石造り。窓からは、日本橋川が望め、明るい陽射しが差し込む。
令和6年12月に「東京都選定歴史的建造物」に選定された。